



社会医療法人近森会

発行

2015年12月25日

びろっば

1

Vol.354

www.chikamori.com ● 高知県高知市大川筋一丁目1-16 〒780-8522 tel. 088-822-5231 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 寺田文彦

年頭所感

思いっきり力を発揮できる舞台で

社会医療法人近森会
理事長 近森 正幸



五カ年計画の完成

近森病院全面増改築工事が五カ年の歳月をかけようやく完成しました。それに伴う診療体制の整備や引越、338床から452床への増床に対応し、医師始め看護師、メディカルスタッフの増員、さらに救急、入院患者の著しい増加で業務量が膨大となり多忙を極めています。

8月末には江ノ口川南岸に新たに近森リハビリテーション病院が完成、快適な病室や広々とした訓練室を有し、先進的なリハビリテーションが展開されています。現在、旧リハビリテーション病院の東部分を全面的に改築中で、1月末には近森オルソリハビリテーション病院が移転、引き続き旧オルソリハビリテーション病院を改築、5月中旬には近森病院附属看護学校が移転することになっています。

医療環境の激変とマネジメント

2015年は日本の医療の転換点として認識されるのではと考えています。これは2014年の診療報酬改定で急性期病院の平均在院日数算定の厳格化、重症度、医療・看護必要度がA&Bとなり、7:1看護もICU、HCUも維持が困難になったこと、さらには在宅復帰率も厳しくなりケアミックス病院や療養病床の入院患者の減少など、「入院の制限」が広範囲に起こり、稼働率の低下やそれに伴う収入の減少で、日本の病院に大きな変動が生じています。

一方、医療の高度化で設備や高額機器の整備、診療材料費や薬剤費の高騰とそれに追い打ちをかける消費税の増税、高齢患者さんの増加によるメディカルスタッフの増員と人件費の増大、これらにより病院経営が急速に厳しい状況に追い込まれています。これに対し、診療報酬は世界的にも極めて低く抑えられており、急性期病院は質を上げて入院患者さんを増やし、労働生産性を高めて売り上げをあげることで、専門性の高いスタッフを増やし、重症患者さんをいかに確保するかの競争が始まっています。

基幹病院としてあり続ける唯一の道

人口減少により基幹病院同士の生き残りをかけた競争の

時代を迎え、近森病院五カ年計画で114床増床、ハードを一新し高度急性期医療に十分耐えうる建物や設備、機器を整備するとともに、優秀な医師、看護師、メディカルスタッフを増員し、活発な研修によるソフト面の充実、さらには電子カルテをバージョンアップしマネジメント能力を地道に高め、システムを充実したことで、10～20年後の医療に充分対応できる病院に変わりつつあります。私たちが進んでいる道は、基幹病院としてあり続ける近森の唯一の進むべき道であったと確信しています。

機能の絞り込みは空気のような存在に

これからはさらなる在院日数の短縮や長期入院患者の転院促進、より重症の紹介患者さんの獲得など機能の絞り込みを徹底し、不要不急のプロジェクトは抑え、コストを堅実に削減するなど、より緻密なマネジメントが求められています。そのためには「選択と集中」で機能を絞り込み、医療の質を上げ、労働生産性を高める必要があります。

病院の機能の絞り込みは「地域医療連携」、病棟の機能の絞り込みは「病棟連携」、スタッフの業務の絞り込みは「チーム医療」、こうしたことを徹底しているからこそ、近森病院が全国に知られているのだと思います。病棟常駐型の「多職種による多数精鋭のチーム医療」により医療のやり方を変え、「医師中心のピラミッド型組織」から「多職種によるフラットな組織」へと転換しつつあります。こうしたことが空気のようなあたりまえの病院風土になっており、近森発展の原動力になっていると考えています。

浜重副院長の「大内科制」に感謝して

先生は28年間にわたり「大内科制」を営々と作り上げてくれました。「内科医は専門医である前にジェネラリストであるべきである」という信念のもと、内科を「大内科制」として統合し、若い医師をまずジェネラリストとして育て、その後、専門性を高め専門医として成長させてくれました。

次ページに続く

前ページから続く

これにより、救急医療に特有な患者数の季節変動や、専門医と患者数のアンバランスに対しても、専門医の業務を「診断と治療方針の呈示」というコア業務に絞り込み、若い医師が主治医機能を担当することで、専門医のバーンアウトを防ぎ、境界領域の患者さんや手間のかかる患者さんも幅広く受け入れ、近森病院のER型救急医療に多大の貢献をしてくれています。

現在、内科専門医制度がはじまろうとしています。内科専門医の研修施設のあるべき姿はまさしく「大内科制」であり、先生が当たり前のようにすすめてくれた内科の体制が、これからの内科の正統であることが明確になってきました。

地域医療連携でも、先生が始めた専門医とかかりつけ医との間の紹介状を介してのピンポン外来は、患者さんばかりでなく地域の先生方の安心と信頼を得て、近森病院の地域医療連携の充実に大きく貢献しています。

現在、中医協では逆紹介した患者さんが紹介状を持たずに再診した場合も自己負担を徴収することが検討されてい

ます。このことは、先生がはじめたピンポン外来こそが、大病院の専門医が行う外来診療の究極の姿であることを示しています。

大学病院の医局講座制やそれを継承した国公立病院とは異質の、浜重副院長が自由に作り上げてくれた「大内科制」という診療体制が、日本の内科診療のあるべき姿であることが示され、これほど嬉しいことはありません。

内科のフラットな組織が診療科や職種間の壁を取り払い、風通しのいい今日の近森の病院風土をつくってくれたように思えてなりません。

みんなで力を合わせて

私たちが思いっきり力を発揮できるすばらしい体制ができあがりました。この一年間のスタッフの頑張りに感謝するとともに、2016年は近森会グループが大きく飛躍する年になるよう、心を新たに走り出したいと思います。2016年もどうかよろしくお願いします。

ちかもり まさゆき

● 医療今昔物語 ● 整形外科 8

変形性膝関節症の治療
—その2・人工膝単顆置換術—

近森病院整形外科
統括部長 衣笠 清人



人工膝単顆置換術（UKA）はたとえば日本人に多い内側型であれば、内側だけを人工関節に置換する手術法です。1970年代に我が国では導入されましたが、1990年以前は人工膝関節全置換術（TKA）と比べて適応は少なく、長期成績もあまり芳しくない手術法とされていました。

しかし近年、低侵襲手術を目指したMIS-UKAという膝関節伸展機構である大腿四頭筋にほとんどメスを入

れず超早期回復を図る手術法が開発されて以来、その価値が見直されてきています。皮切は8～10cmとTKAの半分ぐらいで出血も極めて少なく、侵襲という面ではTKAとは比べものになりません。当院でも5年ぐらい前からこの方法を取り入れ、変形が高度でない、肥満があまりひどくはない、前十字靭帯の機能不全がないなどの条件がそろった場合の変形性膝関節症や骨壊死に対して本法を行っています。確

かに術後の疼痛は軽度で膝関節可動域の回復もすばらしく、適応を間違えなければたいへん良い手術法だと思います。

しかし残念なのは未だセメント手技が必須でセメントレスの機種がないということです。骨セメントは強力な接着剤ですが生体にとっては敵であり、いくら時間がたっても骨と一体化することはないため常に「ゆるみ」という危険性を持っています。したがって、現在は比較的高年齢者を中心にこの手術をお勧めしていますが、今後セメントレスタイプのUKAが開発されれば、爆発的に普及することが予想されます。たぶんそう遠い将来の話ではありませんので膝の悪い方は期待してよいと思います。

きぬがさ きよと

1月の歳時記

ノースポール

キク科の花で花つきがよくこんもりと茂り、他の草花ともに合わせやすく、花壇の植え込みや縁取りをはじめ寄せ植えの素材としても人気があり花期も長い花です。

白く小さな花はかわいらしく、小学生のころに教室で育てていたこと

近森病院 HCU 看護師
主任 秋山 有乃

を思い出します。たくさんの花が咲き長期間楽しめるのでみなさんも寄せ植えなどができよう？



あきやま うの

絵：近森病院 HCU
看護師 高橋幸子



自立した日常生活が送れるよう いち早くリハビリテーションを開始

本館6階A病棟は脳神経外科、神経内科病棟であり、脳卒中や頭部外傷、神経難病などの患者さんが、検査や治療目的で入院されています。

患者さんのなかには意識障害や失語症をとともなう方、麻痺の残存や運動機能等が障害されている方がいらっしゃ

近森病院本館6階A病棟

看護師長 影山 美佳



います。早期からリハビリテーションを開始するとともに、残された機能を生かし、患者さん自身が食事、排泄、清潔、移動など、日常生活が少しでも自立できるよう、我々看護師も日々の生活のなかで機能回復を促すケアを心掛けています。

病棟ではあちこちでリハビリスタッフと看護師、管理栄養士とリハビリスタッフ等々が話している姿をよく見かけるのではないのでしょうか？これは、日々刻々と変化する患者さんの状態を評価し、今なにが患者さんにとってベストなのかを多職種間で話し合っている姿です。その日々のミーティングを、病棟スタッフは個別性のある統一したケアにつなげています。

その他にも入院直後から退院後の生活に目を向け、退院後安心して生活を送ることができるよう退院支援の充実



を図るために、多職種（医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、社会福祉士、薬剤師、管理栄養士、看護師）でカンファレンスを行っています。

突然の発症やボディイメージの変化にとともない、患者さんやご家族の不安な思いにふれることが少なからずあります。私たち6A病棟スタッフは、患者さんやご家族が少しでも「こころ」と「からだ」の健康が取り戻せるよう、日々患者さんにとってのベストを考えていきたいと思ひます。

かげやま みか

ハッスル研修医

あっという間に



初期研修医 久 雅行

今年より近森病院で研修させていただいている久雅行です。4月に就職してはや8カ月、振り返ると本当にあっという間でした。最初は右も左も分からず、上級医や他の医療スタッフの皆様に全一から教えていただき、それでもなお毎日分からないことだらけの日々です。

今のいちばんの悩みは、仕事を始めてからめっきり運動する機会が減る一方で飲み会が増えて顔と体が横に伸びてしまったことです。これはまずいと週末はジョギングをしていますが、気が付けば12月。寒さで汗もかきません。痩せるどころか体に悪い気がしてきました。そこで普段エレベーターを使わないようにしてみました。ところが近森病院の更衣室は9階で、研修医室は8階にあるのです。3日で諦めました。

こんなまだまだ伸びしろいっぱいな僕ですが、雑用でも何でもやりますので気軽に声をかけていただけたら嬉しいです。

ひさ まさゆき

職員旅行



ロサンゼルス、ディズニーランドで▼▶



◀大阪のUSJへ行ってきました。写真は巨大なゲートです



私の趣味

「ターゲットバードゴルフ」
ってご存知？危機管理室
室長補佐
溝渕 克郎

現在、ゴルフの名がついたレクリエーションスポーツはグランドゴルフ、パークゴルフ等たくさんありますが、「ターゲットバードゴルフ」をご存知でしょうか。「ターゲットバードゴルフ」はゴルフボールにバドミントンのシャトルコックのような羽根をつけたシャトルボールを、マットの上でゴルフクラブ(PW)で打つ競技です。ゴルフの場合はボールをホール(穴)にパターで転がし入れますが、このスポーツではパラソルを逆にしたような形の器具(ホール)であり、そこへボールを入れるスポーツで、各ホールにはパー数を決めて設定します。

私は日頃の運動不足の解消とゴルフのアプローチの向上のために15年程前からこのスポーツを始めました。現在、地域の小学校の体育会の活動として、校庭で月に一度のコンペや練習を楽しんでいます。メンバーの高齢者には名人級のテクニックの方もいて、私は「まだまだ若造で練習不足だなあ」とよく思います。

芝・土等の地面でそれほど広くない場所でもクラブをフルスウィングできる爽快感が味わえ、青少年から高齢者まで幅広い年齢層まで手軽に楽しめるスポーツで、毎年高知県の協会主催による大会も行われています。興味のある方は一度校庭を覗いてみては如何でしょうか。 みぞぶち かつろう

ソーシャルワーカー
にとっての面接医療福祉部
部長 川津 奈加

今回から、患者さんやご家族の相談を担当するソーシャルワーカーの現場を皆さんに見ていただくことになりました。ソーシャルワーカーの代表的な仕事は「面接」です。私たちは、面接によってその方の置かれている状況や気持ちを理解していきます。問題によっては話が家庭の事情や経済状況に及ぶ場合もあり、患者さんの生活に立ち入らせていただくことに気を引き締めながらの業務です。

「なってみんとわからん。」

時に患者さんはこう口にされます。確かに、ご本人の気持ちはご本人にし



かわかりません。だからこそ、私たちはきちんと聞かなければならない。そんな気持ちで、言葉や表情・身振り・声の調子など表現されるすべてに気を配ります。

患者さんとの出会いの場ともなる「面接」は、ソーシャルワーカーにとってたいへん重要です。ラグビーの五郎丸選手とはいきませんが、私は、肩の力を抜きながらひとつ深呼吸をするという儀式を経て、面接の場に向かいます。 かわつ なか

リレー エッセイ

お遍路

近森病院外来センター
看護師長 日浦 利恵

去年は弘法大師の開創1200年、かねてから行きたかったお遍路に、藤井師長の一声で参拝が叶いました。バスツアーに申し込み予備知識もないまま一番目の札所で身の回り品を整えて、さあ出発です。

札所に着くと一礼して左側通行で門をくぐり人の所作を見よう見まねで参拝をしました。賽銭箱に心ばかりチャリーン、時にはゴン!という音で思わず藤井師長の顔を見て苦笑い。お大師様とつながっている綱を握っている時は不思議な安堵感でした。先達さんのほら貝の合図や木魚のリズムで本堂とお大師堂の2カ所で般若心経を唱えます。始めは口がまわらず口パクでした。

特に楽しみだったのは巨木や仏像等の雰囲気も勿論ですが、先達さんによる歴史の小話を織り交ぜたガイドです。札所にまつわる品物、名物の食べ物や記念品等の紹介にも及び小物やバッジが次々と増えました。

季節の花を愛で、重要文化財や秘仏のご開帳に触れ自分なりに楽しみました。88番の大窪寺では御衣黄の桜に出会い思わずパチリ。お礼参り



▲高野山で記念写真
藤井師長と右筆者



の高野山は静寂かつ荘厳な雰囲気につつまれ、身の引き締まる震えを感じ最高の癒しになりました。

昨今、お遍路を世界文化遺産にとの声も上がっています。2016年はうるう年で88番から巡礼する逆打ちを計画中です。順打ちの3回分のご利益があるとか……、いえいえ滅相もない、そのような欲は持っていません(笑) ひうら としえ

出張報告

2015年10月17～20日

第68回日本胸部外科学会定期学術集会 シンポジウム発表 ～「医師と看護師だけで できる医療」のその先へ～

近森病院ハートセンター
看護師長 田中 眞貴子



第68回日本胸部外科総会が兵庫県神戸市で開かれました。「いま知っておくべきチーム医療推進の基礎知識－看護師に依頼できる特定行為項目が決定！胸部外科領域チーム医療への影響を検証する－」をテーマに、5人のシンポジストによる発表が行われました。

特定行為とは診療の補助であり看護師が手順書により行う場合には実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされるものです。2015年10月1日から特定行為に係る看護師の研修制度が施行され厚労省が定める施設で研修が始まっています。

心臓部門の代表として選考された心臓血管外科入江博之部長とともに“先進的施設報告（心臓）：「医師と看護師だけでできる医療」のその先へ”というタイトルで以下のような内容で発表しました。

「当院では2000年に心臓血管外科が開設されて以降、経験を重ねアセスメント能力の高い院内認定されたエキスパートナースが医師の包括指示、個別指示のもと特定行為に準ずる行為を行ってきました。それだけではなく多職種で協働し、医療の質を上げつつ、労働生産性を高めたチーム医療を行っています。これからの急性期医療は医療の高度化、治療の標準化、治療対象の複雑化に対応するため多職種による多数精鋭のチーム医療が必要な時代です」

発表をしながら近森病院の最先端チーム医療を再認識してきました。 たなか まきこ



出張報告

2015年11月7日～11日

AHA2015 米国心臓協会学術集会 American Heart Association's Scientific Sessions 2015



臨床や研究の動向と 最先端情報を

社会医療法人近森会
学術担当理事 土居 義典



2015年11月7日（土）から11日（水）までAHA2015に出席した。毎回、どの分野に最も活発な活動や進歩が見られるのか臨床や研究の動向を探るとともに、最先端の興味ある情報に触れることができる。

開催都市のオーランドは米国南部のフロリダ州にある観光都市（シーワールドやユニバーサルスタジオなどが有名）であるが、日本から参加するものにとっては学会が開かれる米国の都市の中では最も遠く少し疲れ気味で到着した。広大な田園風景の中に、米国一の広さを誇る学会場と南国ムードのホテル以外には何もなくて、翌日から3日間は、学会場とホテルを往復する毎日であった。

従来基礎研究が中心で、「Science」を強調していたAHAであるが、後援企業の減少に伴いその規模も小さくなり、会員の増加・後援企業の増加を目指して米国心臓病学会（ACC）と同じように臨床研究や教育にも力を入れている印象をうける。また今回の学会では、女性やアジア系研究者の活躍も目についた。

時差で昼夜逆転のため、午後3時以降は居眠り状態となるため、毎回昼過ぎまでの演題を集中的に聴くようにしているが、大学勤務の頃と比べると、リラックスして楽しむことができた。米国やヨーロッパから参加している友人たちと久しぶりで旧交をあたため情報交換するのも楽しみの一つである。来年の再会を約束して11日（水）早朝にオーランドを後にした。来年はぜひとも内科の若い人たちといっしょに参加したいものである。



▲参加していた友人の一人と。左が筆者

どい よしのり

第19回公開県民講座

日時 2016年1月23日（土）14：00～（開場13：30）
会場 高新RKCホール

第一部 和田恵美子 近森リハビリテーション病院 医師

「高齢者のリハビリテーション」

第二部 村木厚子氏

「少子高齢化社会をどうのりきるか」

講師

村木 厚子氏

前 厚生労働事務次官
土佐高等学校 49 回生
高知大学文理学部経済学科
1978 年卒業



全国から若い世代が参加して

医事課長代理 竹崎 智博



社会医療研究所の岡田玲一郎先生が立ち上げたチッパーフォーラムが12年ぶりに近森病院で開催されました。今回は、全国から15病院、合計57名の参加となりました。チッパー

フォーラムへの参加資格は、とにかく自分の病院が好きな人。そんな若い世代(35歳以下)の人たちが全国から集まって、いつでも相談できる仲間づくりを行うことが目的です。

今回のグループワークのテーマ「選ばれる施設を目指して～今、私たちが出来る取り組み～」では、職種別に集まり、それぞれ専門的な視点から活発な意見交換が行われました。また、懇親会では、高知ならではの「皿鉢料理でおもてなし」を行い、

昼間以上に楽しくパワーのある宴になりました。

これからもこの繋がりを大切に、病院間での情報交換を続けてほしいと思います。 たけざき ともひろ

▼近森会スタッフで見学案内を担当



第146回地域医療講演会

2015年11月21日

▼社会医療研究所所長
岡田玲一郎先生

生きて、生きて、 生き抜く命

社会医療法人近森会
管理部長 寺田 文彦



11月21日(土)に社会医療研究所所長の岡田玲一郎先生をお迎えし、第146回地域医療講演会を開催しました。「生きて、生きて、生き抜く命」と題して、一般市民や医療従事者向けに“生老病死”の受け止め方や患者さんの終末期に携わる医療のあり方について講演を頂きました。

当法人も30年前から職員研修をお願いしており、高度経済成長から少子・高齢化社会への変遷に伴う死生観の変化は興味深い内容でした。

最初に、当法人のファミリーユ高知の西岡施設長が、「就労支援事業所B型で働くことの意味」と題して、福祉の立場から身体・知的・精神の3障害の就労支援の現状報告を行いました。自立・労働・社会参加の有用性について、障害者の喜びを支える就労環境づくり

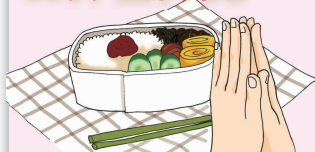
の大切さが改めて感じられました。

岡田先生は、「生きて、生きて、生き抜く命」と題して、「死をも生きる、不自由で生きる、いのちと医療」などの副題の意味を説明されました。医療従事者向けに患者さんの^{まも}り方を、患者さんの自立を促し人生の最後の医療を決める「事前申請書」の運用方法な

ど、多義にわたってご指南をいただきました。

高齢化社会の先端を走る高知県において、幸せな死を迎えるための有限のいのちのあり方を、いまいちど見直すことに一石を投じる講演会であったと思います。 てらだ ふみひこ

お弁当拝見 39 程よく、適当に



近森病院総合心療センター
デイケアメンタル
作業療法士 澤田 麻奈美



私の日課は、毎朝早起きをして朝食、夕食の準備をしてから、お弁当作りに取りかかることです。

いつも朝食と夕食がメインになり、お弁当は程よく適当に作っています。一品は冷凍食品に頼りながら、できるだけ手作りのお弁当を作っています。

最近ハマっているのは、水素水で作るご飯や煮物と四万十の醤油を



使って作る卵焼きです。

さわだ まなみ

第 6 回近森病院心臓血管ウェットラボ

インストラクター／近森病院病理診断科部長 円山 英昭



心臓血管ウェットラボの目的

当院のウェットラボは院内・外の医療関係者を広く対象として、心臓・血管疾患の一般的な治療法についてインストラクターの指導の下に、諸検査により感染等に問題ないとされた無菌豚の、解凍後の濡れた状態 (wet) の心臓を用いて、解剖に始まる実習を行い、知識を深め、実習後の学習や活動の動機付けとする。

歴史

2005 年 10 月、院内スタッフ (97 名) に限定して初めて開催。以後も心臓血管外科入江博之部長の主導のもとに、隔年毎に開催。2 回目 (2007) には、参加対象を院外にも広げ、さらに内容にアブレーションや病理を加えたウェットラボの実習内容の原型がほぼ完成した。

今回、第 6 回では、院内・外の参加者総数は 219 名 (医師、研修医、看護師、臨床検査技師、臨床工学技士、放射線技師、PT

／OS / ST、管理栄養士、看護学生、関連する部署の職員、ソーシャルワーカーやメーカーのみなさん) となり、当院での同様な企画の中で、最大の公開勉強会にまで発展した。

実習内容

今回も参加者は 2 群に分かれ、10 の実習机毎に設定されたテーマをローテーションしながら、各インストラクター (院内・外より参集) の指導により、心臓の解剖、カテーテル治療 (PTCA、

ステント留置)、刺激伝導系のアブレーション、冠状動脈バイパス、人工弁置換術などの実習や見学、剖検材料での冠状動脈硬化や治療後の病態の学習を順次行い、タイムキーパーの時間調整により、実習の全行程は昼食をはさみ、円滑に終了した。

実習の意義が徹底し、スタッフによる 2 年間の周到な準備と参加者の旺盛な学習意欲が、当院のこれまでのウェットラボの基盤となっている。

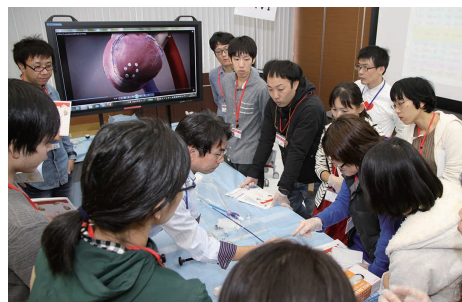
えんざん ひであき



終了時の集合写真



▲シミュレーターを使ったカテーテルアブレーション



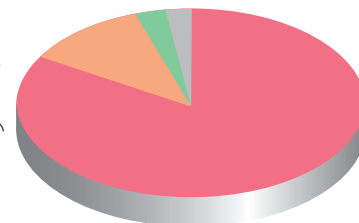
▲TAVI (経カテーテル的大動脈弁留置術)

参加人数 アンケート 回収枚数：172 枚

参加人数	
院内	113
院外	106
合計	219

今回のウェットラボは有意義な実習でしたか

- そうである
- どちらかと言うとそうである
- どちらでもない
- どちらかと言うとそうではない
- そうではない
- 未記入



当番幹事・臨床工学部急性期 CE チーム主任 橋本 将幸／和田 英大



実際に縫合体験



冠動脈病理の説明

2015 年 MVP 受賞者のみなさん



◀近森会グループ MVP のみなさん
▼ハートセンター MVP のみなさん



近森会グループ MVP 受賞者のみなさん

部 門	受 賞 者	理 由
近森病院 看護部 ICU 病棟	岡崎 継	高規格病棟 4 病棟の担当者一覧モニターの提案者。多職種連携において大変実用的なツールだと、院内外からも感心の声が多数あがっている。
近森病院 看護部 6B 病棟	友草 杏理	整形外科病棟で、長年、若手看護師の指導、医師や師長とのつなぎ役として大いに貢献している。多忙なかでも、常に手本となるような対応が素晴らしい。
近森病院 看護部 北 3 病棟	山崎 龍一郎	急変事例の症例報告を促した際、真摯に取り組んでくれた。体験した症例を振り返ることは医療人として重要であり、またその経験を他のスタッフと共有する姿勢は近森病院の看護部としてあるべき姿である。
近森病院 看護部	谷 未来 徳久 もえみ 濱田 千世	企画から校正に至るまで看護部パンフレット作製に尽力してくれた。若手の感性を十分に発揮したパンフレットは、魅力あふれるものに仕上がりに、看護部リクルートへの多大なる貢献に感謝。
近森病院 看護部	蝦名 玲子 / 西村 梨加 中内 清理亜 / 高橋 美緒 林 加奈子 / 奈路 恵	褥瘡委員会の取り組みにおいて、年間作成ランキングの上位に入賞。DESIGN-R の理解を深め、数多くの褥瘡評価を多職種で共有できたことは、チーム医療の共通理解において、大きな貢献へとつながっている。
近森病院 歯科衛生士 (チーム受賞)		感染対策委員会による手指衛生直接観察の結果、歯科衛生士の皆さんは、手指衛生の遵守に加え、個人防護具も抜かることなく装着され、感染対策が徹底されていた。
PS サポーター (チーム受賞)		より良い病院となるよう、自分たちで企画・立案した様々な取り組みを行っている。その活動は、職員の意識を変えつつあり、近森会グループ全体をより良くしていこうというひたむきな努力が素晴らしい。
近森病院 看護部 放射線科 (チーム受賞)		血管造影室や内視鏡センターでの処置が増加する中、24 時間体制で、いつでも安全に、そして患者さんが安心して検査・治療が受けられるよう、臨機応変に対応してくれている、その奮闘を称えて。
近森病院 ER (チーム受賞)		救命救急センターの受入れ窓口として多くの工夫やシステムを構築するとともに、病院勤務の救急救命士の役割を理解し準夜勤務を開始するなど、近森病院の救急受入れに多大なる功績をあげている。
近森リハビリテーション病院 (チーム受賞)		新リハビリテーション病院の新築移転に伴い、設計、備品購入、引っ越し、運用まで、職員一丸となって取り組み、全国屈指のリハビリテーション病院が完成した。リハ病院全スタッフに感謝。

ハートセンター MVP 受賞者のみなさん (非役職者のみが対象)

部署	受賞者	受 賞 理 由
近森病院看護部 5B 病棟	尾崎 美鈴	いつも笑顔でいやな顔せず仕事をこなし、誰にでも公平に接することができる。
近森病院画像診断部	門脇 圭治	ICLS のインストラクターを 15 年以上務めてくれている。CAG、TAVI で活躍中。
近森病院放射線科	川村 峰子	放射線科は血管造影、内視鏡があり土日祭日 ER 勤務もあり。TAVI でも活躍中。それらを一人で担ってくれている。これからも若手が育つまで頑張してほしい。
近森病院看護部 ICU 病棟	田井 遙	いつも笑顔で多職種からの相談にのってくれ、頼りになる。
	山中 京子	リーダーナースとして持ち前の明るさであたたかいケアを提供し、スタッフへの指導も熱心に介入してくれている。また夜間や休日のベットコントロールなどの中心的な役割も果たし他職種との連携も丁寧に行っている。

「非閉塞性腸間膜虚血に対して 計画的再手術を施行し、 対照的な経過を辿った2例」

近森病院外科
川本 常喬



第90回中国四国外科学会総会で後期研修医セッション奨励賞を受賞しました。

発表までにはさまざまな苦労がありました。当院のチーム医療の成果や討論内容が評価されてとても嬉しく思います。

私が勤務する外科には同期がおりませんが、今回学会に参加したことで全国に志の高い仲間が数多くいることを肌で感じ、とても良い刺激を受けました。

この経験を日々の診療に活かし、より良い医療を目指して一層努力していく所存です。かわもと のぶたか

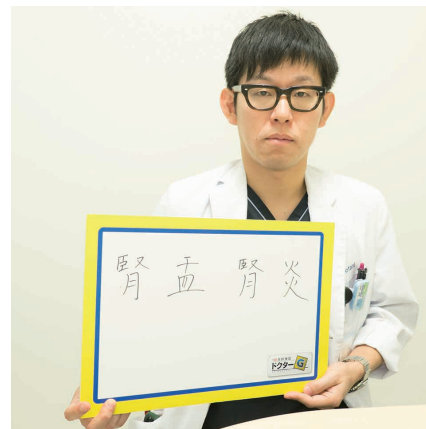


▲去年の勤務先（JA広島総合病院）でお世話になった田崎達也先生（左）と

NHK
「総合診療医ドクターG」
出演

予想以上の
反響の大きさに驚く

初期研修医2年次 猪谷 哲司
（高知大学医学部附属病院より、
複合研修プログラムにて
2015年度を近森病院にて研修中）



先日NHKの「総合診療医 ドクターG」に出演させていただきました。

収録は東京のスタジオで約4時間行いました。収録日まで担当の先生もわからない仕様で、小児科の先生と分かった時の感想を一言でいうと「!?!?!」でした。

出演後の反響は予想以上に大きく、あき総合病院で地域研修中だったにもかかわらず、すれ違う人から「昨日観たよ!」「かつこよかったよ!」など、たくさんの温かい言葉をいただき、全国放送の影響の大きさを感じました。

最後に、NHKは皆様の受信料で運営されておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

いのたに さとし

PS アワード授賞式報告

笑顔や応対マナーで!

去る11月11日(水)、PSアワードの受賞者への表彰式がとりおこなわれました。受賞者の方々も最初は緊張されていたようですが、近森正幸理事長より「皆さんの笑顔を見ていたら受賞されたのも納得しました!」とのお言葉をいただき、写真撮影も笑顔で終えることができました。

時間の都合がつかず授賞式に参加いただけなかった要先生には、サポーターより表彰状をお渡ししました。

今後の近森グループが、医療水準でも設備面においても、そして笑顔



や応対マナー面においても、高知を代表する組織に成長し続けていくために、受賞者の方々にはこれからも近森グループを大いに盛り上げていただきたいと思います。

引越し

近森オルソ リハビリテーション病院

1月30日(土)、31日(日)の両日、
改装した近森リハビリテーション病院
跡地へ引越しを予定しています。
ご協力よろしくお願いたします。

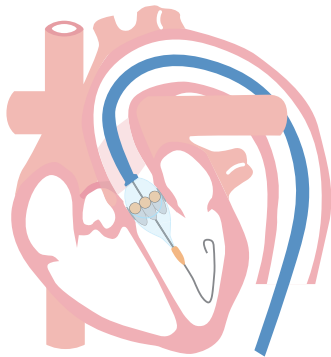
一つの症例を 約30分かけて熱烈に議論

「四国TAVIの会」発起人
近森病院心臓血管外科部長 入江 博之



カテーテルによる大動脈弁留置術 (TAVI) が行われるようになり、昨年12月から四国でも施行されるようになりました。

この新しい治療法のコツや落とし穴などの経験を共有する目的で開催を呼びかけました。四国で現在TAVIが行われている4施設すべて、それに



© 2015 Edwards Lifesciences Corporation. All rights reserved.

これから始める1施設を加えて、5施設が当院に集まりました。

一つの症例を約30分かけて熱烈に議論し、4症例について深いディスカッションを行いました。

たいへん有意義な会となったため、第2回を愛媛県で行うこととしました。

この会で得た知見が今後



各病院でTAVIを受けられる患者さんたちの利益になればいいなと思います。

いりえ ひろゆき

第148回地域医療講演会

2015年11月27日

痛みの漢方治療 について

▶ 静仁会静内病院
院長 井齋偉矢先生



近森病院総合心療センター
副センター長 宮崎 洋一



毎年、超多忙のなか高知にお越しくださっている井齋先生が、今年も11月27日(金)に、「痛みの漢方治療」という演題で講義をしてくださりました。

今回は誰でも関係する「痛み」ということで多数の方々にご参加くださいました。とくに法人外からの参加者が多く、井齋先生が提唱されている「サイエンス漢方」が、高知にも浸透しつつある印象を強く受けました。

いつものテキストも更にわかりやす

くなっており、早速皆さんが活用してくださっていることと思います。

みやざき よういち



▶ 四国管財さんへ

日頃の感謝の気持ちを込めて、賞状をみんなで作って、四国管財さんとエムサービスさんに「ありがとう」を込めて渡しました。

エムサービスさんへ▼





◀高知大学医学部災害・救急医療講座
特任教授 長野修先生

最新の情報と、自身の知識と、 経験を活かして

近森病院臨床栄養部 宮島 功



症患者の栄養ガイドラインの概要、栄養管理の大規模研究の紹介など幅広い内容のお話をいただきました。

集中治療領域での栄養管理は、まだまだ不明な点が多いですが、我々は目の前の患者さんに対して、適正な栄養サポートを行わなければいけません。多くの情報の中から必要なものを抽出し、患者さんの日々の状態を評価し、

適正な栄養サポートを行えるよう努力したいと強く感じました。

みやじま いさお

12月1日に高知大学の長野修先生より「救急・集中治療における急性期栄養管理」についてご講演をいただきました。

先生の実際に経験された、ビタミン欠乏や微量元素欠乏の症例や最新の重

■■ パンフレット完成 ■■

近森リハビリテーション病院の新築移転に伴って、新しい病院パンフレットが完成しました。



バレーボール大会

11月29日(日) サンピアシリーズにて約70名が汗をかきました！
優勝は画像診断部「PANDA」チーム♪ (写真右)



ワイン講座 ● 38

ぶどう品種を知り、個性を探る 黒ぶどう その15

イタリア篇 アリアニコ

日本では馴染みのない品種ですが、イタリアを代表する三大ぶどうの一つとされています。その栽培の中心はイタリア南部のカンパーニャ州とバジリカータ州。有名ワインとしてタウラージ (D.O.C.G.)、アリアニコ・デル・ヴルトゥレ (D.O.C.) が挙げられます。

共に、標高 400 ~ 600 m の内陸高地、火山性土壌、冷涼な気候、気温の日較差が大きといった共通点があり、アリアニコに適する自然条件といえます。またゆっくりと熟すのでポリフェ

タウラージ・ラディーチ・リゼルヴァ・アントニオノ・マストロベラルディーノ/イタリア、カンパーニャ州●オーク樽 30 ヲ月、瓶熟成 40 ヲ月以上されリリースされているが、膨大なタンニンと果実味が存在し、とても長い余韻を感じることが出来ます。生産者いわく 30 年後が飲み頃だとか。

ノールとタンニンを多く含みます。それにより色濃く濃厚な味わい、強い香りをもつ長期熟成タイプのワインが生まれます。

近年、押し寄せた国際ぶどう品種の波は、イタリア国内も例外ではなく、伝統的な地場品種を次々と国際品種に植え替えていくなか、アリアニコの伝統的なワイン造りの歴史、その素晴らしさを守るために立ち上がる生産者も見かけるようになりました。

タウラージは熟成によって素晴らしい変化を遂げるワインとしても有名

で、綺麗な熟成によって上品かつ奥深い気品に満ちたワインに生まれ変わります。

イタリアではバローロ、キアンティ・クラシコなどが有名ですが、タウラージは品質と価格のバランスが取れたものが多く存在します。お気に入りの1本が見つかるかもしれません。

鬼田知明 (有限会社鬼田酒店代表)



ニューフェイス

①所属②出身地
③最終出身校
④家族や趣味のこと、自己アピールなど

2015年11月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	17,808人
新入院患者数	917人
退院患者数	900人

近森病院（急性期）

平均在院日数	15.69日
地域医療支援病院紹介率	66.45%
地域医療支援病院逆紹介率	140.70%
救急車搬入件数	564件
うち入院件数	283件
手術件数	391件
うち手術室実施	278件
うち全身麻酔件数	167件

● 2015年11月 県外出張件数 ●

件数 87件 延べ人数 159人

編集室通信

前に WOWOW でもやっていたが、民放の放映で「下町ロケット」が話題になった。大企業の専横に対する、中小企業の悲哀と心意気と技術力に悔しい思いがしたり、胸が熱くなって涙が出る日もあった。先日のこと、安価な衣料品販売の最大手である某U社の代表が、「日本も難民を受け入れなければ」ともっともらしい発言していたのを耳にした。店員として少しでも安い賃金で働かせようという意図が見え隠れしていて、「下町ロケット」とは対極の姑息さを見る思いがした。

霖

図書室便り (2015年11月受入分)

- Fractures of the Pelvis and Acetabulum Volume1,2 / Marvin Tile, et al.
- Periprosthetic Fracture Management / Michael Schuetz, et al.
- Minimally Invasive Plate Osteosynthesis / Reto Babst, et al.
- Manual of soft-tissue management in orthopaedic trauma / David A. Volgas, et al.
- Handbook Orthopedic Trauma Care / Piet de Boer, et al.
- Pediatric emergency assessment, recognition, and stabilization INSTRUCTOR MANUAL / Leon Chameides, et al
- 自分の「ものさし」で生きなさい 人を

愛し、自分を愛するための処方箋 / 酒井雄哉 (他著)

- あきらめない働くあなたに贈る真実のメッセージ / 村木厚子
- 私は負けない「郵便不正事件」はこうして作られた / 村木厚子

《別冊・増刊号》

- 別冊・医学のあゆみ 広がる Hippo pathway 研究 癌から各種疾患へ / 畑裕 (編)
- 別冊 NHK きょうの健康 腰痛 首の痛み、手足のしびれ / 持田譲治 (他総監)
- デンタルハイジーン別冊 歯科衛生士のためのカリオロジー 知っておきたい40のポイント / 伊藤中
- 臨床と微生物 42巻 増刊号 多剤耐性菌

の検査と感染制御 / 小栗豊子 (他著)

- 泌尿器ケア 2015年冬季増刊カラー写真でよくわかる! 尿路ストーマケアとスキンケア / 樋口ミキ (監)
- 呼吸器ケア 2015年冬季増刊 呼吸療法 “合格チャレンジ” 100日ドリル 毎日使えて基礎が身につく! / 西信一 (監)
- 透析ケア 2015年冬季増刊 透析患者のくすりカラー大事典 245製剤を写真つきで紹介! / 平田純生 (編)

《視聴覚資料》

- Pediatric emergency assessment, recognition, and stabilization PEARS COURSE AND UPDATE COURSE 3-Disc Set Professional / American Heart Association (監)

よさこい「ちかもり」 皆勤賞のインストリーダー

ほぼ「よさこい」一色の夏

昼過ぎから夜まで働くのと、もう一つ午前中いっぱい夕飯過ぎに病院に入って翌朝まで働く。この二つの勤務形態が一カ月の勤務日数のうちのおよそ半分を占める。

よさこい祭りに近森会が参加し始めた2010年から連続でインストラクターと実行委員を務めている関係で、毎年5月半ばからの三ヵ月余りは、週に3、4回は「よさこい」で潰れる。7月8月は夕方からの3時間、ときによさこい「補習」が入ってきたり、自身の踊りの練習もあったりで、ほぼ「よさこい一色」の夏を送っていることになる。



▲よさこい2015 (撮影:宮崎延裕放射線科部長)

秋以降、踊りの期間が終わってからは高知駅前イベントその他、全国レベルの研修会の演舞披露など、平均5、6回は踊っている。

例年の百人程度の近森会踊り子のなかで、初年度からインストラクターのリーダーに選ばれたのは「もうずっと踊ってきたからかな。最初は幼稚園の



▲インストメンバーで「インスト練習終了～！」

時で、中学一年で再開してからは毎年、一年の休みもなかったんです(笑)」と、その年季の入り具合には自覚がある。

「やめない哲学」と呼びましょうか…

一度始めたら、始めた以上はずっと続けるという「やめない哲学」とでもいうのか、どうやら根気が特徴らしい。一人っ子で、親は「一人でも淋しくないように、一人でもできる習い事をやらせてくれた」そうで、ピアノも水泳も習字も硬筆も10年くらい続けたし、「よさこい」を再開した中学一年から今日は、指を折ってもらいたい。

日々の、身体に優しいとはいえない日程を楽々こなせるのは、やはりこの小さい頃からコンスタントに貯めてきた体力の賜物なのだろう。

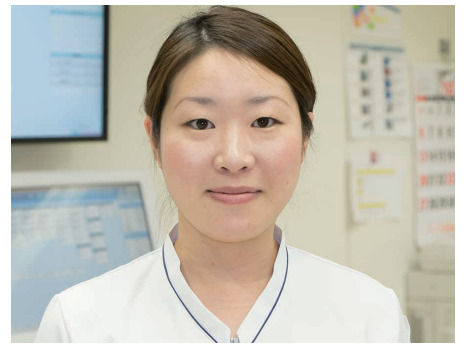
それでも夏には「エナジードリンクが欠かせない(笑)」そうで、体力プラス気力の充実ぶりが想像できるのではないだろうか。

大人になっても誉められること

よさこいリーダーを務める時期があるためかどうか、若手中心のスタッフ配置の際は、つつい張り切ってしまうそうだし、反面、「上の人がいるときは、ついホッとしてしまいます」と、甘え上手な面もある。「情に厚い姉御肌だが、可愛がられる後輩でもある」と、病棟での評判が聴こえてきた。ときにキビシイ面もあるようだが、よさこい終了時には、列の踊り子らから贈り物を用意されるなど、愛されていることがよく分かる。

ところで、やっぱり「よさこい」の話になってしまうが、なんでこれほど休まず続けられるのだろう。

じっと考えてからニコリ、「上手やね～!とか、誉めてもらえるのが嬉しいのかも知れません。仕事では、うまく出来て当たり前で、誉められることはまずありませんし、大人になって、他に誉められるようなことって見当たりませんよね～」とのこと。うんうん



確かに。なかなか説得力がある!

「よさこい」に関わることで広がる人間関係も嬉しいそうで、他職種と知り合いになれていることが仕事の場面にも活かされ、「何かあったとき、相談しやすいのは、よさこいの何よりのメリットです!」とのことだった。

もう一つ、踊り振り付けの田村千香師匠と出会えたことは宝で、「あの『熱さ』とオモシロさは人を惹きつける魅力に溢れている」と、うっとり。そんな人と身近に膝突き合わせられる日常も、毎年続けられる情熱の源になっているのだろう。

やっぱり感謝感謝で……

そうそう、日々の勤務体制については、新卒で近森会に入ってから十年、「ベースがこの勤務なので、これが普通」だし、「好きなときに好きなものを食べ、好きなようにやらせてもらっている今の生活は、やっぱり有難いです」。ニコニコしながら、「周りのスタッフにも親にも感謝しないといけませんね～」と、シャキシャキ明るいオーラに包まれて、平日勤務終了後の貴重な数十分は瞬間に過ぎてしまった。

近森病院附属看護学校

「看護のこころをつなぐ 誓いのセレモニー」開催

近森病院附属看護学校 西本 清香



11月27日（金）第1期生41名は、近森会グループの職員や保護者の方々の見守るなか、無事に「看護のこころをつなぐ～CHNS 誓いのセレモニー～」を成し遂げることがで

きました。

このセレモニーは、初めての基礎看護学実習の開始前に、学生個々が目指す看護や目標を宣誓することで学習意欲や看護学生としての自覚と向上心を高めることを目的としています。

近森病院附属看護学校の初めての誓いのセレモニーのため、試行錯誤しながら教員と看護学生とともに一か

ら作り上げました。とくに実行委員の11名を中心とし、時間外の練習も学生主体で実施することができました。今回の体験で学生個々が非常に成長したとうれしく感じています。

今回の誓いの言葉を胸に、12月より実習が開始されます。現場の皆さん方、引き続きご指導のほどよろしくお願いします。

忙しい合間をぬって、セレモニーに参加して下さった近森会グループの職員の方々には、感謝いたします。

にしもと きよか



学生全員で宣誓



学生と臨床の輪をはぐくむ会▲

患者さんやご家族の支えに

近森病院附属看護学校 1年生 山本 恭平
大野 真奈美



▲今回奮闘した実行委員

今回、CHNS 誓いのセレモニーを開催するにあたり、自分たちがどのようなセレモニーにしたいか、計画立案の段階からスタートしました。しかし、1期生ということもあり、前例がなくセレモニーのイメージができませんでした。どうすれば私たちの思いが伝わるのか、宣誓する言葉や場所など何度も考え、練習を繰り返して、改善していきました。先生方や

関係部署の方々にご指導、ご協力を頂き、試行錯誤した結果ひとつの形を作り上げ、式を迎えることができました。

セレモニーを終えて、私たちが臨床の現場で活躍できる看護師になれるよう、先生方をはじめ数多くの方々が私たちを支えてくださっていることを改めて実感しました。今支えていただいている分、患者さんやご家

族を含むあらゆる人の支えになれるよう、実習や日々の学習生活に精進して参ります。

実習先の方々にご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、学生一同、一生懸命努力して参ります。よろしく願いいたします。

やまもと きょうへい
おおの まなみ